

令和6年2月21日（水）に開催した地域医療構想調整会議の開催後の追加意見

NO	追加意見
1	<p>東部地域の病床公募による急速な増床拡大が予定されている中、医療従事者の確保が今後困難になる可能性があり心配しております。</p> <p>また、回復期リハ病床が急速に増床する状況を鑑み、その募集は一時保留とし、回復期病床としては「地域包括ケア病床」のみの公募とする等、地域内の病床バランスを考慮したものとなるよう切に願います。</p>
2	<p>社会的な問題を抱えた独居老人、認知介護などの患者が増加しており、残念ながら医療介入の余地があまりなく、治療終了後に転院手続きなど、大変な労力を要しているのが現状です。特に急性期病院の現場の医師にそれらの負担が集中して本来の救急業務を圧迫しています。我々のような公的な病院はまず地域のどのような救急患者も受け入れなければならない、こういった患者への対応、転院にはケースワーカー、病院事務は大変な労力をさいています。</p> <p>施設入所の超高齢者の体動困難、活動性低下、体調不良なども増加しており、今後はこのような患者へのケースワーキング、指導が行政には望まれます。ある程度の社会的ハイリスクの高齢者を事前に地域で把握しておき、後見人やACPなど取っておくことが重要で、そのための施設顧問医や施設と連携する地域包括ケア病床の病院を普段から決めておくことが必要です。</p> <p>要は急性期病院に転院調整のためのスタッフ、情報を充実させることも必要で、そのためには地域連携をさらに強めることが重要に思います。また地域包括ケア病床持つ施設は、普段から連携する介護施設を決めておかれることを要望致します。</p>
3	<p>東部保健医療圏における、病床(医療機能毎)の不足状況を踏まえ、当該圏域及び越谷市内医療機関における既存の病床数等の現状を考慮し、バランスのとれた整備をお願いしたい。</p>